

東北地方交通審議会  
第203回船員部会

議事要録

令和7年9月26日  
東北地方交通審議会  
船員部会事務局

# 東北地方交通審議会

## 第203回船員部会

日 時 令和 7 年 9 月 26 日（金） 13：30～

場 所 仙台第4合同庁舎 4階会議室

出席者 公益委員：阿部部会長、古谷部会長代理、野崎委員

労働者委員：甲斐委員、高橋委員、奈良委員

使用者委員：千葉委員、平岡委員、村上委員

運輸局：真田海事振興部長、熊谷海事振興部次長、  
柳松船員労政課長、上村専門官、小野寺労政係長

1. 開 会

2. 議 題

（1）管内の雇用等の状況について

（2）情報提供について

（3）その他

3. 閉 会

（資料）

資料1 船員職業安定業務取扱状況説明資料（7月分）

資料2 新規求人・求職数（東北管内：3年対比）

資料3 有効求人・求職数（東北管内：3年対比）

資料4 新規求人・求職数（全国）

資料5 有効求人・求職数（全国）

資料6 有効求人倍率（東北管内）

資料7 有効求人倍率（全国）

◎開 会

【熊谷海事振興部次長】

〔第203回船員部会の成立状況について報告〕

〔配付資料確認〕

◎議 事

【阿部部会長】

本日もよろしくお願いいたします。

いつものように次第に従って進めさせていただきます。

まず、議事次第の「議題（１）管内の雇用等の状況について」、事務局から報告をお願いいたします。

〔柳松船員労政課長から資料１～７に基づき説明〕

【阿部部会長】

ありがとうございました。

ただいま資料についての説明がありましたが、ただいまの報告内容について、何か皆様からご意見、あるいはご質問ありましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

それでは、ないようですので、ご了承いただいたものといたします。

それでは、続きまして、「議題（２）情報提供について」に入りたいと思います。

委員の皆様から情報提供等をお願いいたします。

初めに、労働者委員からご発言をお願いいたします。高橋委員お願いします。

【高橋労働者委員】

海員組合の定期全国大会は毎年11月に行っていますが、今年は中間大会ということで11月の12日から13日、鹿児島市内のかごしま県民交流センターで開催されます。

あと、もう一点ですが、9月1日から沖合底引き網の操業が始まっていますが、今年は真イカの漁獲が大変良くて、TAC（漁獲割当て量）が大分削減され、宮城県に配分された枠がい

っぱいになりました。今月の水産審議会の資源の分科会があり、そこで真イカの漁獲量を全国で6,600トン増枠しましたが、宮城県の底引き網には1,300トンしか配分されませんでした。9月で大分獲れましたので、通常は9月、10月、11月くらいまで獲れるのですが、このままではまたいっぱいになってしまうということで、今は65トン以上の船が1日1トンまで、19トンの船が700キロまでの制限をして操業しています。

昨年の漁獲割当て量が7万9,200トン、今年が1万9,200トン、約76%減になったのですが、減量するにあたって、結構な水揚げがあったときは期中改定するということで今回改定になり、6,600トン枠が出ましたが、まだ大分イカがいるようで、なかなか獲るに獲れないという悩みでいるようです。

**【阿部部会長】**

ありがとうございます。

続きまして、甲斐委員からお願いいたします。

**【甲斐労働者委員】**

高橋委員からもお話ありましたが、八戸地区の沖合底引き網漁船についても、9月1日から10隻全船操業を開始しております。また、中型イカ釣り漁船については、今まで西経漁場でムラサキイカ漁をしていましたが、ムラサキイカ漁は全船切り上げて、今は八戸前沖のスルメイカ漁の操業をしているという状況です。

以上でございます。

**【阿部部会長】**

ありがとうございます。

続きまして、奈良委員からお願いいたします。

**【奈良労働者委員】**

気仙沼地区を説明いたします。サンマ漁船の状況ですが、8月以降好漁が続いていて、9月はTACがいっぱいになる可能性があるということから、各船、水揚げ後48時間は岸壁につけたまま休漁しておりました。今後、10月1日からはロシア海域での操業を予定しております。

以上でございます。

【阿部部会長】

ただいま各委員から情報提供いただきましたが、何か補足はありますか。

ありがとうございました。

続きまして、使用者委員からお願いいたします。平岡委員からお願いいたします。

【平岡使用者委員】

日本内航海運組合総連合会は、このほど令和7年度版「内航海運の活動」という冊子を発行しました。それによりますと、内航船員の現状は、令和6年10月時点で2万1,586人となっており、前年比161人の増加、令和4年に一度落ち込みましたが、その後は徐々に回復し、平成25年度以降では最も多い水準となっております。一方、50歳以上の船員は全体の46%、60歳以上は26%となっており、内航船員の高齢化、今後加速すると予想される高齢者の退職への取組が重要な課題となっております。

また、内航船員の新規就労者数も、少子化の影響を受けて令和元年以降、減少傾向にありましたが、令和6年には854人、前年比93人の増加となりました。今後も若年船員の安定的な確保、育成に取り組むことが重要です。

以上です。

【阿部部会長】

ありがとうございました。

続きまして、千葉委員お願いいたします。

【千葉使用者委員】

2点ほど報告させていただきます。

今月、9月13日に海事振興連盟によるタウンミーティングが青森で開催されております。その中で日本旅客船協会として8項目を提言しておりまして、まず1つは東北地方の旅客船航路の現況及び要望、2番目として離島航路の現況及び要望、3番目としまして船舶用燃料油に対する価格高騰等対策の継続、4番目、小型旅客船等の安全対策に対する支援、5番目として旅客船事業の振興に対する支援、6番目としてGX推進に資する代替建造の促進、7番目として青森でやっておりますので青森地区等の地域的な課題、8番目として海の日固定化についてということ提言しておりまして、その中で3番目の船舶用燃料油に対する価格高騰対策等の

継続ということで、船舶用燃料油を含めた激変緩和対策事業の継続など、あらゆる対策を講じるよう特に要望しております。

一般的にガソリンに係る暫定税率、今マスコミ等々で報告、いろいろ議論しておりますが、ご承知のように船舶用燃料油は重油と軽油です。それで、燃料高騰対策の制度設計にあたっては、陸海空でバランスの取れたものとなるよう特にお願いしております。ここであえて強調しておりますのは、ガソリンの暫定税率廃止により、ほかの財源、税に、これを求めようとする場合について、船舶用燃料油にしわ寄せのないようにしてほしいということが強調されて伝えております。

続いて2点目ですが、毎年8月10日から20日までの夏季期間中の旅客船輸送実績を取りまとめておりまして、これは全国の旅客船事業者の中の21者を抽出しており、長距離フェリーは除いておりますが、まず旅客船ですと59万777人で対前年比99.9%、コロナ前の平成30年度比は86.1%となっております。そして、長距離フェリー7者の数字は12万8,074人、対前年比103.1%で、コロナ前の平成30年度比では84.1%でした。旅客船及び長距離フェリーの合計では71万8,851人で、対前年比100.5%です。コロナ前の平成30年度比では85.7%にとどまっているという結果となっております。ただし昨年の8月10日から20日は台風ですとか豪雨の影響があったことを考慮すると、コロナ前には全然及びもつかないですが、比較的伸びつつあるのかなというところが推測されます。

以上です。

#### 【阿部部会長】

ありがとうございました。

続きまして、村上委員からお願いいたします。

#### 【村上使用者委員】

気仙沼の宮城県北部船主協会で、継続的にマグロ船、カツオ船等の乗組員の募集を行っております。以前は縁故関係、知人等の紹介、そういうことで乗ってくる若者が多かったのですが、最近の傾向としてはネットでマグロ漁、カツオ漁等の情報を見て応募してくる方が多いです。漁業は3Kと言われていたこともありますが、最近はいろいろ話をしていると、きつくてもいい。短期間で多くの収入を得て、あとは長い休みが欲しいというようなことを言う若者が随分応募してくるようです。

遠洋マグロ船等は、大体10か月航海で2か月ぐらい休むというところが最近増えていますが、10か月海外の港に入りながら働いて、収入を得た後に2か月がっちり休むということで、気仙沼の船主協会でも、実際に乗船している船員の休暇の過ごし方等をブログに載せて募集活動を行うと結構反応があるという話です。

あとは、マグロ漁やカツオ漁についてネットで仕事を探すとき、気仙沼でもホームページを持っている会社もありますが、業者さんにお問い合わせすると、検索したときに上位に出るという仕組みがあり、それを年間契約して上位に出てくるような、そういう対策をして募集活動を行っている漁業会社もあるという話を聞いております。

昔とは、働き方、若者の考えというのは、ちょっと傾向が変わってきているという印象です。以上です。

【阿部部会長】

ありがとうございました。

ただいま使用者委員の方々から情報提供いただきましたが、ほかに補足等ありますか。よろしいでしょうか。

【真田海事振興部長】

先ほど千葉委員からご説明ありましたけれども、先月9月13日青森タウンミーティングが開催されまして、今日お集まりの関係団体、あるいは全日海さんもお出席されております。旅客船協会も東北旅客船協会、それから内航も内航総連さんが参加されまして、全体で120人ほどが出席しております。最後は、海事振興連盟のタウンミーティングということで決議が行われたところでございます。私も参加させていただきまして、皆様、いろいろご協力いただきました。どうもありがとうございました。

【阿部部会長】

ありがとうございました。今、部長からタウンミーティングの補足ということで情報をいただきました。

ただいまの情報も含めて、情報提供全般について何か皆様からご意見、ご質問はありますか。

【甲斐労働者委員】

追加になりますが、先ほど千葉委員からも青森県の旅客船の状況がありましたが、むつ湾フェリーの、外ヶ浜の蟹田から下北の脇野沢に運航している旅客船ですが、来年4月に新造船が就航するということで、先日、船名が「かけはし」に決まったという報道がありましたので報告します。

以上です。

**【阿部部会長】**

ありがとうございます。

そのほか、情報の追加でも結構ですが、ご質問あるいはご意見等も含めて、あればよろしく願いいたします。

**【村上使用者委員】**

先ほど高橋委員から、沖底の真イカの漁獲がよいという話がありましたが、宮城県ということですか。

**【高橋労働者委員】**

いえ、東北、太平洋全体です。

**【村上使用者委員】**

そうすると、宮城県、岩手県沿岸、全体的によいということですか。

**【高橋労働者委員】**

青森、岩手、宮城、福島、よいみたいですね、沖底の。それで、6,600トンのうち宮城県の沖底の割当てがさきほどの1,300トンで、大臣許可です。65トンの船と19トンの船、合計すると二十五、六隻あるのか。比較的隻数が多いので、1日の割当てが1トン、700キロというような形になっています。青森も多分、沖底は同じく1,300トンくらいだと思います。

**【甲斐労働者委員】**

八戸も今1隻、3トンから4トンを獲ってこようということで制限しています。いつもですと20トンぐらい獲れるときは1隻で獲ってくるのですが、それを4トンぐらいに抑えて獲りま



しょうということにしています。

【高橋労働者委員】

逆に、トン数制限したことで単価が高くなっています。

【村上使用者委員】

10年ぐらいもう量がなくて、ずっと量がない高い状態が続いていたと思います。去年の枠が7万9,200トン、今年が1万9,200トンとまるっきり減らされて、漁業者側も制限されるというのは厳しいですね。

【高橋労働者委員】

だから、TACを決めるときに条件つきで期中改定しますよということで1万9,200トンになったのですが、これも1回、2回くらいで終わるような話です。

【村上使用者委員】

再度改定が、この後？

【高橋労働者委員】

もう一回あるのではないかという話ですが、その会議が11月の中頃というところです。

【村上使用者委員】

甲斐委員が言ったのは八戸のイカ釣りですか。

【甲斐労働者委員】

トロールです。釣りは、また別のTACがありますので、トロールはトロールのTACですし、釣りは釣りのTACでやっています。

【村上使用者委員】

釣りの方は、どうですか。

【甲斐労働者委員】

釣りの方もよいです。TACが決まっていますが、そのTACに迫りつつあります。だから今、漁業者としてみると、魚がいるのに獲れないということですから、一番厳しい状況になっていると思います。

【高橋労働者委員】

1万9,200トンというのは全国の割当てなので、その中に競合するのがまき網ですね。底引き、イカ釣り、それに合わせて各県の持ち分というものがあります。結構小型船の人たちの分というようなもので、それで振り分けされているから大分厳しいですね。五、六年くらい結構な差のTACの設定で、実際の漁獲量とTACの上限のトン数差が結構ありました、全然イカが獲れなくて。今年は大分ぎゅっと詰まってしまったのに、豊漁だということですね。

【村上使用者委員】

分かりました。

【阿部部会長】

ありがとうございました。獲れるのに獲れない、獲らないと価格が上がってくる、何か難しい問題がいっぱいはらんでいますが、ありがとうございます。

そのほかいかがでしょうか。補足、あるいはご意見、ご質問、よろしいでしょうか。

それでは、ないようですので次、「議題（3）その他」に入りたいと思います。

本日の部会全般について、何かご発言等ありますでしょうか。

【甲斐労働者委員】

前回の船員部会で豊田委員から、沖底の最賃で新たな材料が提出された場合にはこちらも検討しますという話があったと思いますが、その後何か動きといたしますか、資料の提出とか、そういうものはありましたか。

【柳松船員労政課長】

お答えいたします。

現在のところ、いろいろ調査はしているところですが、新しい資料の提出は特にございませ

ん。鋭意調査は進めているところでございます。

【甲斐労働者委員】

では、このまま進むのでしょうか。昨年と同じような形で沖底の最賃が始まるということですか。

【真田海事振興部長】

そうですね、今のところそのイメージで考えています。

【甲斐労働者委員】

分かりました。

【阿部部会長】

前回から状況は変わっていないということですね。

【真田海事振興部長】

はい。

【阿部部会長】

ありがとうございます。

そのほか、何かございますか。

ないようですので、それでは本日の議事はこれにて終了といたします。

次回の船員部会ですが、10月24日金曜日の13時30分から、今度はウェブでの開催ということになりますのでよろしくお願いいたします。

最後に、事務局から連絡事項等ありましたらお願いいたします。

【熊谷海事振興部次長】

事務局からは、今回も議事要録についてのご連絡となります。

お配りしております8月開催の第202回議事要録案につきましては、内容をご確認いただきまして、修正等ございましたら10月9日木曜日までにご連絡くださいますようお願いいたします。

す。

また、ご確認をお願いしておりました第201回議事要録案につきましては、お配りのとおり1か所修正がございましたので、正誤表のとおり修正しましたので、配付しております議事要録で確定版とさせていただきます。

以上ですので、それでは本日の船員部会を終了いたします。

皆様、大変お疲れさまでした。ありがとうございました。

◎閉 会